

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (平成 30 年度)

法人名	特定非営利活動法人 コレクティブ	代表者	川原秀夫	法人・ 事業所 の特徴	地域の中で安心して暮らし続けられるよう、地域の力をつなぎ、結びつけ、地域の 人とともに支える。どれだけ重度の認知症の人でも、尊厳ある暮らしを実現する。 可能な限り、自らの持てる力を発揮し、生きる力を生み出し、普通の暮らしを継続 できるよう支援する。
事業所名	小規模多機能ホーム きなっせ	管理者	坂本陽一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	1人	人	2人	人	2人	2人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結 果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	事業所自己評価と総括表の改善計 画(30年度取り組むこと)を一覧 にし、スタッフ全員が常に目にでき るところ(玄関掲示場所、日誌表紙) に置き、全スタッフが日常的に取り 組む意識をもつようにする。運営推 進会議で取り組み状況を確認して もらう。	改善計画を日誌表紙には貼り付け ていたが玄関掲示については行え ていない。事業所自己評価につい てはミーティング等を活かした取り 組みが定着しており、スタッフ間の 情報共有や、利用者のケアの向上に もつながっている。 運営推進会議で取り組み状況の報 告を行い、確認してもらった。	<ul style="list-style-type: none"> 結果ではなく姿勢としては出来てい ると思う。 いろいろ質問すると、なんでもすぐ答 えてもらえる。普段からコミュニケ ーションをとって、よく利用者に関 わっているのだろうなど感じる。 スタッフ間での評価の差が少なくな ったようだ。 きなっせ側から分からない点や心配 な点を聞いてもらった方が、委員と しては話しやすい。ピンポイントに してもらった方が意見しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価の改善計画を実 施したものを、9月の運営推進会 議で経過報告をする。その中で、 スタッフが悩んでいること、難し いと思っていることに焦点を絞 り、委員から意見をもらう。
B. 事業所の しつらえ・環境	事業所内の居心地(空間、音、臭い) が適切かどうか、利用者や来所する 機会のある家族に聞き、改善する。 その一連のことについて、運営推進 会議において報告を行う。	利用者・家族が来所した際、数名 の方に居心地について尋ね、その 後家族の方が花壇の植え替えな ど行ってくださっている。	<ul style="list-style-type: none"> 居心地がいいかはここにいる人じゃ ないとわからないのでは。 100%それぞれに合わせるのは難し い。ここに合う人が来たらいい。 母がいたころと比べても事業所内は 変わらず維持できていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の居心地・しつらえについ て利用者や家族に聞き、出た意見を参 考に2ヶ月に1回ミーティングで 検討し改善に取り組む。一連のこと について運営推進会議において報 告を行う。
C. 事業所と地域の かかわり	月1回のパン教室の他にも、地域で 得意分野を持った方を見つけて ゆるかふえ開催の回数を増やす。	月1回のパン教室は定期的に開催され ており、地域の方々からも「続けてほ しい」「楽しみにしている」の声がある。 パン教室の先生が休んだ時に、参加者 で内容を決め開催したこともあった。 開催を増やす話は出ているがまだ開 催までは至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちはきなっせと関わっている から知っているが、地域からの認知 度はどうなのかかわからない。 今はホームページを見て情報を知ろ うとする。お金はかかるが認知度を 上げる手段をとってはどうか。 パン教室に来る人は西原地区の人に 限られているが、楽しみにして来る 人は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 西原地区以外に、近隣の自治会 にも依頼し、回覧板にきなっせの 広報誌を入れてもらう。 広報誌の中に、認知症や介護に 関する相談を受ける旨の文章を 入れる。

			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で相談できる場が増えるのはいいのでは。何かの手段で周知してもいいのでは。家族のつどいの参加者は、散歩のついでに相談に来たいと言われていた。 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	事業所評価4の計画実行で得た情報（センター方式A-4）にあがった人・場所のところへ利用者と一緒に出向き広報誌を渡したり、カンファレンス参加を呼び掛けるなど、継続した関わりを行い、本人の地域での暮らしを支える取組みを考える。	利用者と一緒に行き広報誌を渡すことは行ったが、カンファレンス参加は数名の方のみ。しかし、カンファレンスには参加されていない方でも、広報誌を渡した地域の多数の方が利用者と継続して関わってくださっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・A-4の作成は全員分できていても、情報量にばらつきがあるのであれば、一部の利用者だけでなく、均等に活用できることが重要ではないか。完成度を高めていけたらいい。 ・西原地区のサロンは年2回開催している。きなっせも西原にある他の事業所も、 サロンに参加してもらってかまわないと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する利用者と西原地区のサロンに参加し、地域の人たちとの交流の機会をもつ。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所が借りている家の活用方法（人が常駐して近所の人が出立ち寄れる場に、という現在出ている意見も含め）を運営推進会議で検討、実行する。	運営推進会議で話は出たが、具体的なことについての検討、実行は行っていない。隣の地区の会合に参加した際、自治会長から体操など参加したい人が集える場づくりの提案を受けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・集える場が身近にあり、体操とかできるといい。高齢者の孤食の問題もある。話す場、食事、運動などができるといいのでは。 	委員や近隣の自治会長に呼びかけ、事業所が借りている家を活用し、地域を限定せず参加したい人が体操などを行い集える場を開く。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所や利用者の今の実情に即した防災マニュアルを作成し、運営推進会議において提示、検討を行う。	今年度、消防・防災計画については新しく作成し職員へ周知したが、運営推進会議においては提示できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の防災計画は、来年度行政と話し合い、地域の避難場所などきめる。分かり次第、順次お知らせする。 ・先日事業所の訓練に参加したが、実際火事が起きたときは、消防車も入ってくるため、駐車場まで逃げるのは難しいのではないかと感じた。このように奥まったところにある家は、避難をどうするのかを考えておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの意見を取り入れながら、災害時の避難場所・経路・方法の検討を行い、 実際の防災訓練で、確認を行う。